

写真の起源 英国

The Origin of Photography: Great Britain

2019 年 3 月 5 日(火)ー5 月 6 日(月・振休)



展覧会概要

日本における写真文化のセンター的役割を担う東京都写真美術館では、毎春、初期写真に焦点を当てる展示を行っており、2019 年は「写真の起源 英国」展を開催します。

写真の発明に関する研究は 18 世紀末から始まり、1839 年に最初の技術が発表されることで写真の文化が幕を開けます。英国ではヴィクトリア朝の貴族社会で写真の研究が発展し、広く文化として波及します。本展は、多くの日本未公開作品を手がかりに、これまで日本国内で知られなかった英国写真文化の多彩な広がりを展覧します。これは同時に、19 世紀の華麗な英国の姿を同時代に制作された写真によって知るとても稀有な経験となるでしょう。

幕末～明治時代の日本人たちが憧れた英国の写真文化とその歴史の広がりをご自身の目でお確かめください。

本展のみどころ

日本初公開！英国における“国宝級”の初期写真の名品群

本展は当館の初期写真コレクションに加え、世界最古の写真協会であるRPS(ロイヤル・フォトグラフィック・ソサエティ)のコレクションを有するヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアムや、さまざまな初期写真を所蔵するヒストリック・イングランド・アーカイヴ、またスコットランドの初期写真を所蔵するセント・アンドリューズ大学のスペシャルコレクションなど、日本未公開の初期写真を多数公開します。写真技術を発明した英国では、初期写真は国宝級の価値をもって、保存・研究・公開がなされています。本展は英国内でも貴重なコレクションを日本で初めて展覧する写真の起源を紐解く貴重な展覧会です。

写真で甦る！ヴィクトリア朝の栄華

ヴィクトリア朝(1837-1901年)は産業革命による経済発展やロンドン万博の開催などを背景に、大英帝国の黄金時代となりました。写真技術は、荘厳華麗な建築様式やファッションが隆盛する真っ只中に発明され、技術革新を遂げました。写真は時代とともに変わりゆく英国の風景を活写し、現在に伝えています。本展で一同に介する初期写真群は、栄華を極めたヴィクトリア朝に生きた人々や生活の息吹が鮮明に感じられることでしょう。

注目！英国が生んだ写真の発明者たち

「写真は科学なのか、芸術なのか、あるいは両方なのか」*1 写真発明以後の英国では、写真がもつ多面的な特徴から、その分類をめぐる議論が繰り返し展開されました。カロタイプ(ネガ・ポジによる写真方式)を生み出した、ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットや、サイアノタイプ(日光による科学反応で像を焼き付ける青写真)を発明し、フォトグラフィー(Photography)という言葉初めて用いた、ジョン・ハーシェル卿。世界初の女性写真家といわれるアンナ・アトキンス。全世界へ普及する技術を発明したフレデリック・アーチャー。写真誕生の背景には、化学、数学、物理学、自然科学、天文学を代表する英国人学者たちの存在がありました。タルボットは世界初の写真集『自然の鉛筆』(第2巻〈開いた扉〉)のなかで、「本書の主たる目的は、(写真術という)新たな芸術の幕開きを記録に残すことにある」と明言しています。*2 本展は写真芸術の歴史を切り拓いた、発明者たちの足跡を辿ります。

本展図録より参照：*1 マルタ・ワイズ博士「ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館における写真の起源」より、*2 三井圭司「写真の起源と写真文化」より

出品点数 計189点(日本初公開作品 144点)

展覧会構成

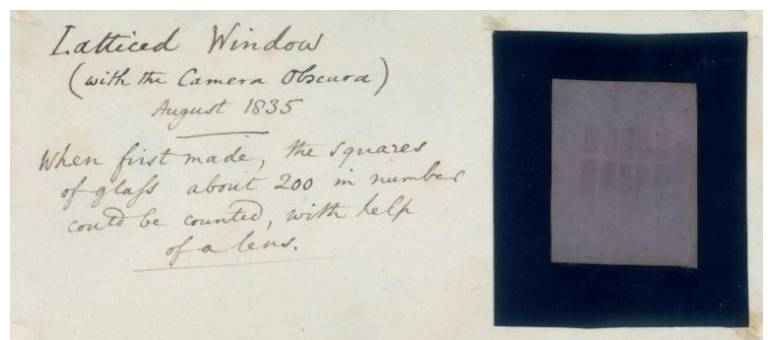
第1章 発明者たち [35点]

第2章 ヴィクトリア朝の文化 [122点]

第3章 英国から世界へ [32点]

ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット《カメラ・オプスクラによるラチェッド・ウィンドウ、1835年8月》(レプリカ)
1835年(オリジナル)単塩紙、(レプリカのための展示品)インク
ジェット・プリント 国立科学メディア博物館

© National Science & Media Museum / Science & Society



第1章 発明者たち

化学・数学・物理学・植物学・考古学に長けた博学者、ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット（1800-77年）は、1833年に、妻のコンスタンスとの新婚旅行で、カメラ・ルシーダ（描写を補助する光学装置）を使って風景を描くことの困難さに落胆し、同時に光学像の美しさに魅了されました。そして、その像をそのまま紙に定着させたいと、実験を開始、1835年夏に世界初のネガ像の定着に成功しました。その後、フォトジェニック・ドローイングの実践を経てカロタイプ（タルボタイプ）を発明します。これは撮影したネガ像から、ポジ像のプリントを作成する方式で、その後150年にわたって中心的に用いられる写真方式の元祖となりました。天文学・数学・物理学・化学に深い知識を持つジョン・ハーシェル卿（1792-1871年）は、1842年に青写真（サイアノタイプ）を発明します。日光をあてて、鉄塩の化学反応を利用した写真技法は、美しい青色が特徴です。最初にフォトグラフィ（Photography、写真）や、ネガティブ（negative、陰画）、ポジティブ（positive、陽画）という言葉を使ったのもハーシェルでした。彫板技師であるフレデリック・アーチャー（1813-57年）は、1851年に科学雑誌『ザ・ケミスト』にコロディオオン湿板方式を発表しました。ガラス板にコロディオオンを塗布し、感光性を与えて撮影、これが乾かないうちに現像をする写真技法は、それから30年以上も写真の中心的な技法として、広く使われていきました。日本で最初に広く普及したのもこの方式です。



1-1



1-2



1-3



1-4



1-5

Pick up

植物学者であるアンナ・アトキンスは、世界で最初の女性写真家であると考えられています。タルボットから写真技術を学び、ハーシェル卿からサイアノタイプの技術を習得しました。アトキンスはカメラを使って撮影するのではなく、植物標本のように、印画紙の上に植物や海草を置いて露光することで画像を制作しました。

- 1-1 ジョン・ハーシェル卿《海辺の断崖にある洞窟、ドーリッシュ、デヴォン》1816年 カメラ・ルシーダを用いたスケッチ 東京都写真美術館蔵
- 1-2、1-3 ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット《タルボットの次女、ラザモンドの肖像》1844年 (1-2)単塩紙／(1-3)紙製ネガ原板 東京都写真美術館蔵
- 1-4 アントワーズ・クロード《ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットのダゲレオタイプによる肖像》1845年頃 ダゲレオタイプ 大英図書館蔵 © British Library Board
- 1-5 アンナ・アトキンス《ギンシダ、ジャマイカ》1851-54年頃 サイアノタイプ 東京都写真美術館蔵

第2章 ヴィクトリア朝の文化

初期ヴィクトリア朝の産業革命による経済発展を背景に英国の写真技法が発明されました。写真技術は、まさに大英帝国の黄金期に産声を上げ、その栄華を写し続けたのです。ヴィクトリア朝を象徴する出来事のひとつに、1851年と1862年にロンドンで開催された万国博覧会があげられます。第2回の万博では、初めて写真のセクションが設けられ、多くの人々が写真と機材を見るために押し寄せました。



2-1



2-2



2-3



2-4



2-5



2-6



2-7



2-8



2-9



2-10



2-11



2-12

Pick up レディング写真工房と『自然の鉛筆』

世界で最初の写真集である『自然の鉛筆』は、ここで使用されている写真方式カロタイプの発明者であるウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットによって上梓されました。1841年にこの技術が公開されて以来、写真が貼付されたアルバムが様々に制作されていました。しかし、印刷された文章に写真が添付されて刊行されたのは、本書が初めてでした。1844年から46年までに6巻まで制作され、24点の写真が公開されました。ロンドンやオックスフォードの風景、タルボットが所蔵する彫像、彼の邸宅をモチーフとした芸術的な写真など、タルボット自身による文章と写真が収録されており、中には植物の写真を使得、ネガ・ポジの原理を説明したページも掲載されました。レディング写真工房は、ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボットの助手であったニコラス・ヘネマン(1813-1898)が、1843年に設立した世界初の写真工房です。図版2-10は工房の様子を視覚的に伝えるパノラマ写真(部分)です。レディングはロンドン-レイコック間を鉄道で移動する場合、ちょうど中間に位置する商業都市です。この工房で『自然の鉛筆』が制作され、カロタイプによって撮影された写真の普及に貢献しました。

- 2-1 デヴィッド・ヒル&ロバート・アダムソン《建設中のスコット・モニュメント、エジンバラ》1845年 単塩紙 セント・アンドリュース大学蔵 By permission of University of St. Andrews
- 2-2 フランシス・ロッキー《桶などを用いた石段の習作》1853年あるいは1859年頃 パース王立文学・科学研究協会蔵
By permission of Bath Royal Literary and Scientific Institution
- 2-3 ヴィクター・アルバート・プラウト《ウェストミンスター寺院の内装、東向聖歌隊台》1860年以前 鶏卵紙 ヒストリック・イングランド・アーカイヴ蔵 By permission of Historic England Archive
- 2-4 ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット《ネルソン・コラム建設中のトラファルガー広場、ロンドン》1844年 単塩紙 大英図書館蔵 © British Library Board
- 2-5 チャールズ・トンプソン《鏡(英国製、1730年頃、カンバーランド・ロッジ所蔵)、ウィンザーの森》1853年 鶏卵紙 ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館所蔵 © Victoria and Albert Museum *
- 2-6 デヴィッド・ヒル・アンド・ロバート・アダムソン《フィッシャー・ゲート、セント・アンドリュース》1845年 単塩紙 セント・アンドリュース大学蔵 By permission of University of St. Andrews
- 2-7 クレメンティナ・ヘイワーデン子爵夫人《クレメンティナ・モウド》 1863年 鶏卵紙 国立科学メディア博物館蔵
© National Science & Media Museum / Science & Society Picture Library
- 2-8 ジョン・アダムソン《彼女の懇願こそ、友人たちの願い》『写真イラストによる若い淑女の成長譚』より 1845年 単塩紙
セント・アンドリュース大学蔵 By permission of University of St. Andrews
- 2-9 ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット《セント・ジョンズ・カレッジのブリッジ・オブ・サイズ、ケンブリッジ》1845年頃 単塩紙 日本大学芸術学部蔵
- 2-10 ニコラス・ヘネマン《レディング写真工房(左)》1846年 ゼラチン・シルバー・プリント、後年のプリント 大英図書館蔵 © British Library Board
- 2-11 ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット《植物の葉》1844-46年頃 単塩紙、後年のプリント 東京都写真美術館蔵
- 2-12 ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット『自然の鉛筆』全6巻 東京都写真美術館蔵

第3章 英国から世界へ

1850年代に入ると、英国の写真家は国外へと活躍の場を広げます。その大きな動機は「外交」と「オリエンタリズム」です。1853年から56年にかけてクリミア半島で繰り広げられた戦争では、はじめて公式記録に写真が用いられました。ロジャー・フェントン（1891-69年）は、戦場に砲弾が転がる谷をモチーフに、誰ひとり写っていない戦場をとらえています。アメリカの南北戦争を民間向けに記録した写真集を制作したのは、スコットランド人のアレキサンダー・ガードナー（1821-82年）です。フランシス・フリス（1822-98年）は、大判（約40センチ×50センチ）のカメラで中東やエジプトの風景や人々の様子を撮影し、英国の人々のオリエンタリズムに応えました。1853年、ペリー提督率いる米国艦隊が日本を開港へと導くと、英国も条約を締結し、写真家たちが来日しました。そして、写真文化が日本にも広まっていきました。1858年、江戸幕府と日英通商友好条約を締結したエルギン卿率いる使節団が来日しました。使節団の一員であり、熱狂的なアマチュア写真家のナソー・ジョスリン（1832-92）が撮影した写真は、日本で最初にコロディオン湿板方式が用いられたもので、鶏卵紙のプリントも日本で最古のものです。そして、写真の渡来から30年以上の時を経て、1891年に「外国写真展覧会」が開催されました。そこでは300点におよぶ英国の写真作品が日本ではじめて紹介されました。



3-1*



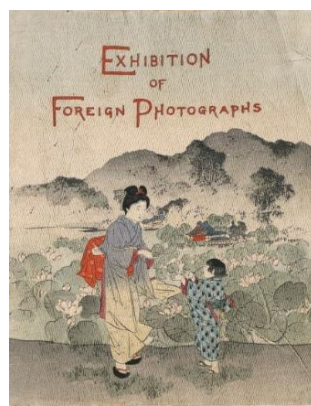
3-2



3-3



3-4*



3-5



3-6*



3-7

- 3-1 ロジャー・フェントン《死の影の谷》1855年 鶏卵紙 ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館蔵
© Victoria and Albert Museum *
- 3-2 フランシス・フリス《トルコの夏服を着た自画像》『エジプトとパレスチナ』第1巻より 1857年 鶏卵紙 東京都写真美術館蔵
- 3-3 ナソー・ジョスリン《外国奉行たち》1858年 鶏卵紙 個人蔵
- 3-4 チャールズ・トンソン《サウス・ケンジントン博物館における1858年のロンドン写真協会とフランス写真協会の合同展会場》(レプリカ) 1858年(オリジナル) 単塩紙、(レプリカのための展示品はインクジェット・プリント) ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館蔵 © Victoria and Albert Museum *
- 3-5 ウィリアム・バートン著『外国写真展覧会 目録』1893年 書籍 東京都写真美術館蔵
- 3-6 ジュリア・マーガレット・キャメロン《美しき乙女の庭》1868年6月 鶏卵紙 ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館蔵
© Victoria and Albert Museum*
- 3-7 ヘンリー・ピーチ・ロビンソン《キャロリング》ゼラチン・シルバー・プリント、後年のプリント 1887年 東京都写真美術館蔵

関連イベント

連続講座

英国の初期写真に関する、研究者による講演を行います。

- 3月7日(木)18:00-19:30 セバスティアン・ドブソン(写真研究家)
- 3月9日(土)14:00-15:30 ルーク・ガートラン(セント・アンドリュース大学准教授) ※逐次通訳付
- 3月15日(金)18:00-19:30 鳥海早喜(日本大学藝術学部専任講師)
- 3月23日(土)14:00-15:30 打林俊(東京大学総合文化研究科特別研究員)
- 3月29日(金)18:00-19:30 高橋則英(日本大学藝術学部教授)

会場：東京都写真美術館 1階スタジオ 各回定員：50名

※各回当日10時より1階総合受付にて整理券を配布します。番号順入場、自由席。

講演会

英国初期写真研究の第一人者であるラリー・シャーフ教授による講演会を行います。※同時通訳付

4月21日(日) 14:00-15:30 会場：東京都写真美術館 1階ホール 定員：190名

登壇者：ラリー・シャーフ(ウィリアム・ヘンリー・タルボットカタログレゾネ ディレクター)

※各回当日10時より1階総合受付にて整理券を配布します。番号順入場、自由席。

古典技法ワークショップ カロタイプ・ネガ制作デモンストレーション

カロタイプ・ネガ(紙を支持体に制作するネガ原板)の制作プロセスを見学できるデモンストレーションです。世界初のネガポジ方式の写真技術を知る絶好の機会です。

3月30日(土)15:00-17:30

会場：東京都写真美術館 1階スタジオ

定員：50名(入場無料、先着順)

※プレゼンテーション終了後に4月6日(土)、4月7日(日)に開催する

「カロタイプ制作ワークショップ」への申し込みも受け付けます。



コロディオン湿板制作ワークショップの様子(2018年)

展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

担当学芸員による展示解説を開催致します。

展覧会チケット(当日消印)をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

3月15日(金) 14:00-15:00

4月5日(金)、19日(金)、29日(月・祝) 14:00-15:00

5月3日(金・祝)、4日(土・祝)、5日(日・祝) 14:00-15:00

ギャラリートツアー・イン・イングリッシュ

英語による展示解説を開催します。

展覧会チケット(当日消印)をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

3月8日(金) 18:00-19:00

3月10日(日) 14:00-15:00

ゲスト：セバスティアン・ドブソン(写真研究家)

イベントはやむを得ない事情で変更する場合がございます。

展覧会図録

「写真の起源 英国」 価格：2,700円(税込)

東京都写真美術館にて刊行。B5サイズ、全247ページ、全編和英表記。

執筆：高橋則英(日本大学藝術学部教授)、セバスティアン・ドブソン(写真研究者)、鳥海早喜(日本大学藝術学部専任講師)、打林俊(東京大学総合文化研究科特別研究員)、ラリー・シャーフ(ウィリアム・ヘンリー・タルボットカタログレゾネ ディレクター)、マルタ・ワイス(ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館写真分門学芸員)、三井圭司(当館学芸員)

英国美術展割引

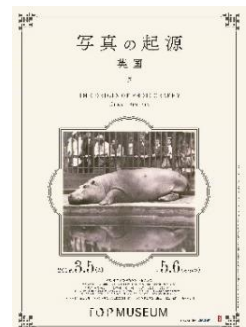
東京都写真美術館で開催する「写真の起源 英国」の会期中、下記の美術展と相互にお得な「英国美術展割引」を実施します。三菱一号館美術館で開催する「ラファエル前派の軌跡」展の半券をご提示いただくと、本展入場券が通常料金より2割引となります。また、三菱一号館美術館で本展の入場券をご提示いただくと、「ラファエル前派の軌跡」展を入館料当日券より100円引きでご鑑賞いただけます。

※入場券1枚につき1回限り有効。他の割引併用不可。

三菱一号館美術館「ラファエル前派の軌跡」展

会期：2019年3月14日～6月9日

問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)



開催概要

写真の起源 英国 / The Origin of Photography: Great Britain

会 期：2019年3月5日(火)―5月6日(月・振休)

主 催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、東京新聞

協 賛：東京都写真美術館支援会員

協 力：全日本空輸株式会社

会 場：東京都写真美術館 3階展示室

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

TEL：03-3280-0099 URL：www.topmuseum.jp

開館時間：10:00-18:00(木・金は20:00まで)※入館は閉館の30分前まで

休 館 日：毎週月曜日(ただし、4月29日[月・祝]および5月6日[月・振休]は開館)

観 覧 料：一般900(720)円 学生800(640)円 中高生・65歳以上700(560)円

※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

※第3水曜日は65歳以上無料

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。

掲載をご希望の際は、下記広報担当までご連絡ください。

《ご注意》

図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記の記載をお願いいたします。

また、図版のトリミングや文字掛け、過度な色調整等の加工はできません。本展の紹介以外の目的では使用できません。

ウェブ媒体にて図版を掲載する場合は、コピーガードをお願いしております。

*印のついた、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館所蔵の図版データは、ウェブ上での無断複製等を防止のため本展の会期終了後に図版データの削除をお願いいたします。

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館

1-13-3 Mita, Meguro-ku, 153-0062, Tokyo, Japan

TEL 03-3280-0034 FAX 03-3280-0033 URL www.topmuseum.jp

展覧会担当 三井圭司 k.mitsui@topmuseum.jp / 山田裕理 y.yamada@topmuseum.jp

広 報 担 当 久代明子 平澤綾乃 press-info@topmuseum.jp